

育てよう

鏡野のよい子シリーズ



「昔は良かった?」

最近、昭和三〇〜四〇年代の暮らしや事件を題材にした映画や、懐メロを特集したテレビ番組をよく見ます。たまには、過去を懐かしみながら振り返ってみるのも良いのではないのでしょうか。

最近、失われつつあるもので、私が最初に思い浮かぶものは、「子守歌」や「童謡」です。特に、短調や悲しい感じのする節を聴く機会はめつくり減ったように思います。音楽の授業でも、短調と長調の違いを感じる学習では、子どもたちはその違いをなかなか感じることができません。これらの曲には、短い節や詩の中に、いろいろな背景が詰まっっていて、一つの物語を感じることが出来るものがほとんどです。幼い頃、おんぶされたり抱っこされたりして、ぬくもりを感じながら聴いたものです。そこから、悲しみや優しさという感情が少しずつ育っていくのだと思います。

失われつつあるもので、次に思い

浮かぶものは、「言葉」です。大人も子どもも、挨拶をしたり家族で会話したりすることが減ってきているように思います。原因は、家にテレビが何台もあること、テレビ型ゲームやパソコン、携帯電話の普及、そして、一人一人の時間的な余裕がないことなどが考えられます。

私は、中学生のサッカーの試合を見る機会が多いのですが、強いチームは必ずと言っていいほど、きちんと挨拶や会話ができます。試合中も、お互いが自分の思いをしっかり話し（叫び）ながら、ゲームを進めています。だから、コーチの指示だけでなく、自分たちで考えて動くことができるように思います。「言葉」は、人間関係を築く上での重要な手段であると同時に、自分自身の心や頭を成長させるものでもあると思います。

おんぶして童謡を歌ってやったり、お話を聞かせてやったりする良さをもう一度、見直してみたいな、と思います。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

大野小学校 森田 聡

のびのびひろば

そりあそびにいったよ!!

ももたろうクラブの活動の一環として、恩原スキー場へそり遊びに行きました。

雪の上での交通安全ゲーム!!行きは、子どもがそりを引っ張ってスタートし、途中、信号の旗を見て、「すすめ!!」「とまれ!!」を判断しながら、おうちの方の所まで歩きました。子ども達の機敏な動きにおうちの方も感心したり、少し笑いもあったり...?!帰りは、おうちの方にそりを引っ張ってもらって、ゴール!!子ども達の何ともいえない笑顔に、太陽もニッコリと顔を出してきました。

その後は、待ってましたとばかりに斜面にまっしぐら!!おうちの方も童心に帰り、楽しんで1日でした。



やっほー!
はいはい!



おーっ!!
あぶない!!



おかあさん、
すっかり
つかまっとてよ!

(奥津保育園)



すべりに
いってきま〜す!



雪像の前で
ハイ、チーズ!



2010.01.28